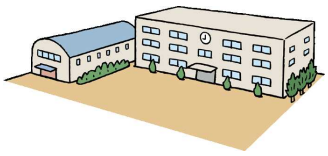

東　輝

みどり市立大間々東中学校
学　校　通　信
令和５年１０月２日　第１２号

全国学力・学習状況調査の結果と今後の取組について

４月１８日、全国の全ての公立中学校の３年生を対象に国語・数学・英語及び質問紙で「全国学力・学習状況調査」が実施されました（英語の一部は２４日に実施）。全体的な結果や分析については新聞等でも報道されましたが、本校としても学力と学習状況について学力向上委員会を中心に分析し、今後の取組についても検討しました。

以下に本校の結果や今後の取組等の概要を掲載いたします。なお、調査を実施した３年生については後ほど個々の調査結果を配布しますので、今後の学習への取組の参考にしてください。

＜調査目的の概要＞

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

＜出題内容の例＞（原則として、前学年までの学習内容で構成されています。）

◇身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
◇実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能
◇知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力
◇様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力

「百聞は一見にしかず」ですので、「全国学力・学習状況調査」ではどのような出題がなされるのか、また、どのようなことを質問されているのか、興味のある方は右のＱＲコードから入って、リンク先の資料をご覧ください。

中学２年生までの学習内容を受けて、国がどのような出題をしているのか、つまり、現在求められている学力とはどのようなものなのか、イメージしやすくなると思います。入試も本調査で出題されるような問題がますます増えています。

＜分析方法及び主な学力向上対策見直しの基本的な流れ＞

国からの結果の提供を受け、大まかに以下の対応を行います。

1　目安として県平均より±５点以上の差がある問題を抽出する。
2　国や県との相対的な比較とは別に、目安として正答率が４０％以下の問題を抽出する。
3　学習指導要領の領域（教科ごとに異なる）や、評価の観点（全教科「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）、問題形式（選択式、短答式、記述式）などの視点で本校生徒の学力の実態や傾向を把握する。
4　生徒質問紙についても、上記１、２と同様に相対的、絶対値的な視点から本校生徒の特徴や傾向を把握する。
5　学力向上担当を中心に学校全体の学力向上対策の見直しや再確認を行うとともに、教科部会ごとに、今後の具体的な重点策を共通理解する。
6　１月に行う市学力テストの結果も踏まえ、次年度に向けた学力向上対策を立案する。

＜本校の結果の概要＞

今年度の群馬県の結果は下の左表のとおりでした。教科に関する調査は、知識を問う問題と活用する力を問う問題を一体的に出題する形となっていますが、群馬県の中学校の平均正答率は、国語、数学、英語とも全国とほぼ同程度です。

また、群馬県の平均と比較して、本校は右表のようになっており３教科とも県の平均を下回っています。

全国と本県の平均正答率（%）			
	国　語	数　学	英　語
全　国	69.8	51.0	45.6
群馬県	71	51	47

本校と県の比較			
	国　語	数　学	英　語
平均正答率	下回る	下回る	下回る
県平均を上回る領域数	０（６分類中）	１（４領域中）	０（５領域中）

＜国語の内容・領域ごとの比較と今後の対応＞

□「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、県の平均をやや下回っています。
□「情報の扱い方に関する事項」は、県の平均をやや下回っています。
□「我が国の伝統文化に関する事項」は、県の平均を下回っています。
□「話すこと・聞くこと」の領域は、県の平均を下回っています。
□「書くこと」の領域は、県の平均を下回っています。
□「読むこと」の領域は、県の平均を下回っています。

◆重点的に指導すべきと考えられる問題（正答人数の割合が低かったものを中心に）

・文脈に即して漢字を正しく書く問題（おし量って）
・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える問題
・読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える問題

結果を踏まえた対策（教科部会で検討された内容の抜粋）

・文章を書くことに関して、一部の生徒が無回答になってしまっている現状があるため、問われていることに対し、まずは一言・一文で答えをつくるなど、少しでも書く、というスモールステップから始めていく。
・二つ以上の文章や資料の読み取りの訓練が必要である。どこに着目して比べるのか、どの部分を比べるのか、共通点・相違点は何かなど、文章と文章同士だけにとどまらず、図表との関連・比較などもとおして学習していく。

＜数学の領域ごとの比較と今後の対応＞

□「数と式」の領域は、県平均を下回っています。
□「図形」の領域は、県平均を下回っています。
□「関数」の領域は、県平均を下回っています。
□「データの活用」の領域は、県の平均をやや上回っています。

◆重点的に指導すべきと考えられる問題（正答人数の割合が低かったものを中心に）

・空間における平面が同一直線上にない３点で決定されることを理解しているかをみる問題
・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかをみる問題
・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかをみる問題

結果を踏まえた対策（教科部会で検討された内容の抜粋）

・中学１年生で学んだ内容を忘れている生徒が多いため、関連した問題を取り扱うときに復習問題を行う。
・正答率の低い問題の類題について復習する機会を設定し、復習する。
・多様な考え方で解くことができる課題をどの単元でも取り組めるようにする。また、タブレットな

どを活用して多様な考え方に触れることのできる授業を積極的に取り入れるようにする。

＜英語の領域ごとの比較と今後の対応＞

□「聞くこと」の領域は、県の平均を下回っています。
□「読むこと」の領域は、県の平均をやや下回っています。
□「話すこと（やりとり)」は、県の平均を下回っています。
□「話すこと（発表)」の領域は、県の平均を下回っています。
□「書くこと」の領域は、県の平均を下回っています。

◆重点的に指導すべきと考えられる問題（正答人数の割合が低かったものを中心に）

・日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかをみる問題
・社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかをみる問題
・疑問詞を用いた一般動詞の２人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかをみる問題
・疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかをみる問題

結果を踏まえた対策（教科部会で検討された内容の抜粋）

・「書くこと」では、１年生からの文法や単語の復習をしながら、間違いを恐れずに問題に積極的に取り組めるようにしていく。
・相手に伝えたいことを英語で即座に話せるように、授業で単語や文を見て、相手に英語やジェスチャーで答えさせる活動を引き続き取り入れていく。
・「話すこと」では、制限時間内でペアで、あるトピックについて話したり、絵や単語を見て伝えたりする活動を強化する。

＜生徒質問紙の結果のうち、特徴的な内容＞

【教科に関連する質問以外で、県の平均と比較してプラス面の差が大きかったもの】

（「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の合計で比較：質問の形で掲載してあります。）
◎普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。
◎学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校が休みの日に活動を行った日は、平均してどれくらいの時間活動していますか。　※３時間以上
◎学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。
○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)　※２時間以上
○地域をよくするために何かしてみたいと思いますか。
○授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。
○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。
○あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。

【教科に関連する質問以外で、県の平均と比較してマイナス面の差が大きかったもの】

▲自分には、よいところがあると思いますか。
▲学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか(インターネットを通じて教わっている場合も含む)。

▲あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。
（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）　※200冊以上
▲新聞を読んでいますか。　※月１回以上
▲外国人の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。

＜今後の主な学校の取組＞

本調査には多岐にわたる要素が含まれているため、全ての結果や分析等をお伝えすることはできませんが、上記の学力や学習状況に関する本校の傾向を踏まえ、引き続き実態に応じた対応策を実践していきたいと思います。以下に示したものは、これまでも取り組んできた内容ですが、改めて実効性について検討しながら学校全体で取り組んでいきたいと思います。

【授業改善の推進】

校内研修を効果的に行い不断の授業改善に取り組んでいくことが、何と言っても学力向上につなげる取組の基本です。このことを考え方のベースとして各種取組を継続していきます。

【補充学習・家庭学習の充実】

定期テスト前や長期休業期間などを活用して、授業時間以外でも学校で学習する時間を設定する取組を継続します。「家庭学習の手引き」の一層の有効活用などについても指導を続けます。

【具体的な学習方法の例示】

学習方法や手段の妥当性・有効性について、本人が客観的に考えながら取り組めない場合が多いと思われますので、引き続き学習方法の例示を行い効果的な学習につなげていきたいと思います。

【指導体制の工夫】

学力向上のために配置されている支援員などの一層の有効活用について検討していきます。また、必要に応じて、単元や生徒の実態等に応じて学習集団を編制する工夫を行います。

【タブレット等の有効活用】

使用することが目的化することがないよう留意しながら、ＩＣＴをツールとして自ら活用できるよう働き掛けます。そのことが一人一人に最適化された学びにつながる指導を心掛けます。

【基本的な生活習慣の定着に向けた取組の充実】

生活習慣と学力に相関があるとされるため、スマートフォン等の使用の在り方について、継続して指導していきます。

近年、教育界では非認知能力という言葉が注目されていますが、群馬県は全国で最も先進的な取組を行っている自治体の一つです。非認知能力は、幼児教育との関連でも研究されてきた概念ですが、学力などの数値化しやすいものとは別の能力として重要視されています。ＡＩの急速な進歩なども相まって、教育の在り方についても改めて活発な意見交換がされているようですが、実生活においては、本調査で測られるような認知能力が必要とされる場面もあれば、それ以外の様々な資質や能力が役に立つ場合もあります。自分のもっている資質や能力が総合的に発揮されながら生きていくということを考えれば、大人も子ども「勉強」という言葉の意味を改めて考えていく必要があるのかもしれません。